

平成16年度地域協同実施排出抑制対策推進モデル事業

家庭の電気ダイエットコンクール事業
マニュアル

平成17年3月

生活協同組合おかやまコープ

1.はじめに

(1)事業の背景

わたしたちは、化石燃料（石油、石炭、天然ガスなど）を使って便利で高度な文明社会を創り、くらしを豊かにしてきました。このくらし方が二酸化炭素の増加を招き、その温室効果によって気温の上昇をもたらしています。

「かけがえのない地球をこどもたちへ伝える」ため、地球環境の現在の状態を知り、そのうえで自分に何ができるかを考える必要があります。

くらしの中で、人まかせにするのではなく、一人ひとりが積極的に取り組んでいかなければ決して環境問題は解決しません。具体的な行動を起こす必要があります。

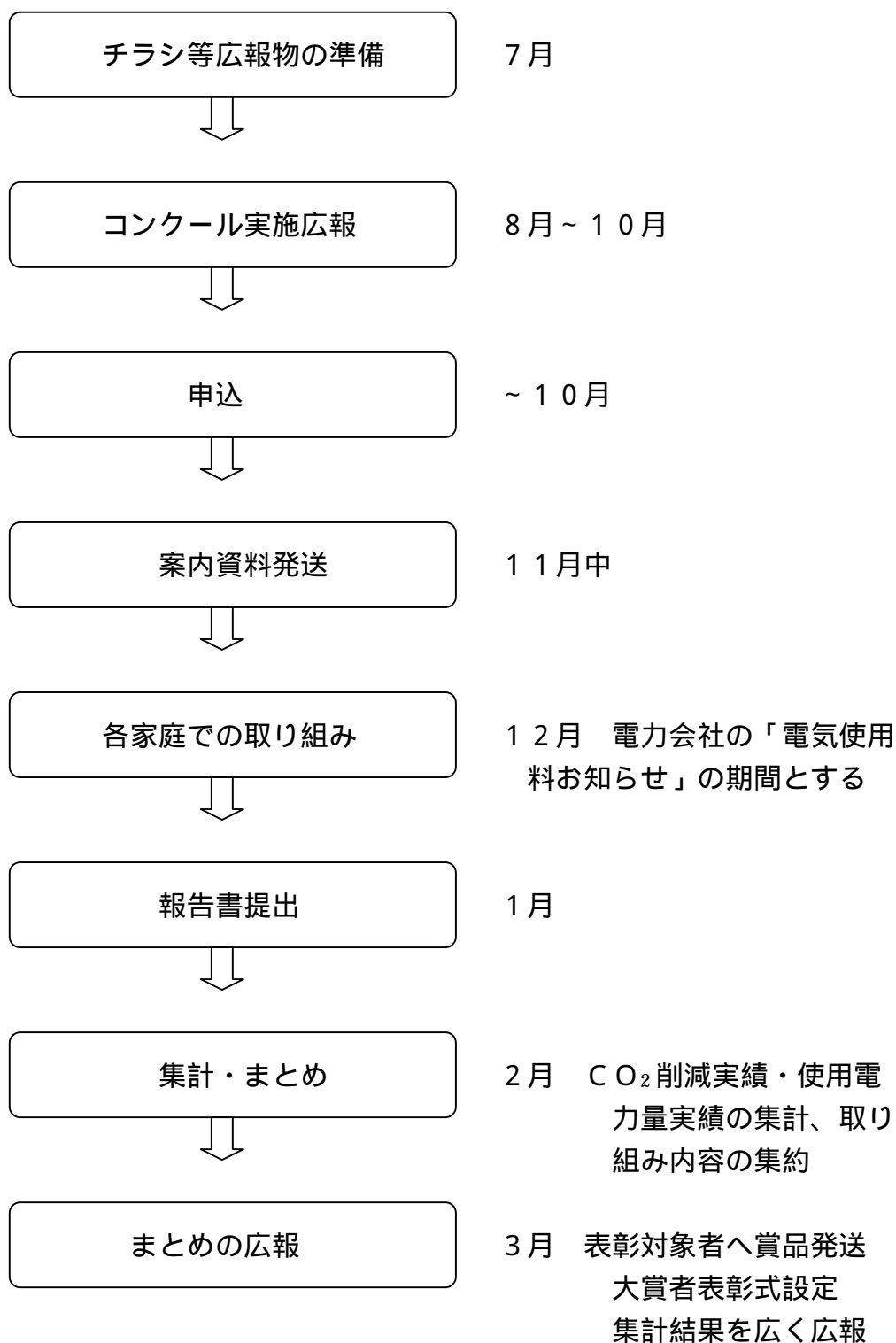
その具体的な行動の一つとして、省エネルギーの取り組みを通じて、環境にやさしい暮らし方について考えるキッカケをつくり、電気代の節約につなげ、誰もが気軽に家族ぐるみで楽しく参加できる企画として、「家庭の電気ダイエットコンクール」を実施します。

(2)事業の目的

各家庭における電気使用量の対前年比の削減割合や世帯1人あたりの電気使用量、省電力の取り組み内容の3点を競う「電気ダイエットコンクール」を行い、当該コンクールや各家庭での省エネの工夫により、地域の家庭での省エネ対策の普及を図る。

2. 実施要綱 手順・スケジュール例

12月を取り組み期間とした場合



3. 体制

(1) 事務局の主な業務

チラシ等広報物の作成
申込案内
申込者情報管理
資料作成 - コンクールの説明と啓発につながるもの
資料発送
報告書提出の呼掛け
報告書集計作業
表彰 - 表彰式の設定や賞品の発送
結果の広報

(2) 集計項目

報告してもらう項目

- 1) 電力会社の「電気使用量のお知らせ」を報告書に添付
その内容より、今年度月電気使用量、前年度月電気使用量、今年度月使用日数、前年度月使用日数、今年度月電気料金（請求予定額）を集計
- 2) 世帯人数
- 3) 連絡先
- 4) 取り組み内容、感想

集計する項目

- 1) 1日当り使用量前年比
- 2) 世帯人数一人当り電力使用量
- 3) CO₂削減量
- 4) 電気料金単価

4. 事業の結果

(1) 応募実績 2,841世帯

(2) 報告実績

	報告数	達成者	削減世帯	増加世帯	無効世帯
計	1,453	618	973	416	64

「達成者」：1日当り電力使用量が前年比10%以上削減した世帯

(3) 電気使用量削減実績・CO₂ 想定削減実績

全世帯(1,389世帯、無効64世帯を除く)実績

04年1月使用量計：728,002 kWh

03年1月使用量計：808,328 kWh

削減電力量：80,326 kWh

削減電気料金：1,654,716円 (平均単価より)

全世帯平均料金単価：20.6円

1世帯当り平均料金：10,837円

1世帯当り削減額：1,191円

削減CO₂量：49,802 kg - CO₂

CO₂係数：0.62 - 中国電力実績値より

平均・世帯人数：4.2人

平均・1日当り使用量対前年比：86.8% (削減率：13.2%)

中国電力岡山支社内電力使用量前年比：104.1%

平均・世帯人数1人当り電力使用量：127.3 kWh

削減世帯(973世帯)のみの実績

削減電力量：102,003 kWh

削減電気料金：2,101,262円

1世帯当り削減額：2,160円

削減CO₂量：63,242 kg - CO₂

CO₂係数：0.62 - 中国電力実績値より

(4) 支出決算

単位：万円

項目	金額
人件費	20
アルバイト賃金・旅費	8
消耗品費（封筒代）	6
通信運搬費（郵便代）	32
印刷製本費（チラシ・資料代）	76
他	1
消費税及び地方消費税	7
合計	150

5. 流れと主な工夫点

(1) 募集要項、広報

1) 実績について

下表の通り、コンクールを何回か繰り返すことで、具体的なイメージの浸透が図れ、参加者増につながる。

過去の応募者実績

年度	応募者数	前年比
2002	339	-
2003	1,659	489.4
2004	2,833	170.8

2002年度：対象は委員のみで実施

また、具体的なイメージの浸透が図れることで、削減実績としても、質的向上につながっている。

達成実績

地域名	04達成	03達成	前年比
合計	618	177	349.2

「達成者」：1日当り電力使用量が前年比10%以上削減した世帯

2) 表彰対象について

前年まで表彰の対象を、「前年比1日あたり電力使用量削減」に絞っていたため、日常的に節電されている世帯は、コンクールへの参加がしにくいとの声があったので、幅広くあらゆる家庭でコンクールへの応募をしていただくよう、今回のコンクールの表彰対象を以下の4通りとした。

- ・前年比1日あたり電力使用量10%以上削減された方全員
- ・前年比1日あたり電力使用量削減率上位3名
- ・世帯1人あたりの電力使用量が少ない上位3名
- ・優れた取り組みとして「がんばったで賞」3名

3) 取り組み期間について

取り組み対象期間を「1月分中国電力電気使用量お知らせ」の対象期間（実際は12月中旬～1月中旬とか12月初旬～1月初旬等、地域の検針日の違いによりまちまち）と設定・説明していたが、期間を誤解される方が若干いた。

(2) 支出について

啓発用の詳しい資料を作成せず、報告書だけを提出する形式とし、最も簡素化した場合、30～40万円程度の支出でも実施できる。

この場合、啓発が充分できない分、削減実績等も下回ると想定される。

7. 事業の評価

評価

電力量として80,326 kWh、CO₂量として49,802 kgの削減実績があがったこと、また、中国電力岡山支社内電力使用量は前年比4.1%のアップとなっているが、本コンクール平均では前年比13.2%削減できており、この事業が啓発的な要素のみならず、実績として確実にCO₂量削減につながるという証ができた。

そして、参加者からは、この取り組みが家庭での暮らし方を見直すきっかけになったとの声が数多くあがっており、今までの無駄な部分が明らかになったり、家族の意識の変化につながったという効果につながった。

課題

当初目指した「ライフスタイルの見直しのキッカケ」にはなっているが、コンクールという性格上、非日常的、一過性的な取り組みも見られる。今後は「電気」に限定しない取り組みや、「コンクール」という形態ではない「生活全般」に関するような取り組みへの移行が必要である。

また、広くこの事業の成果を広報することで、コンクールに参加していない世帯や、省エネに無関心な世帯に対する啓発につなげていけるような取り組みも必要である。